

1 学校教育目標	
「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、地域社会に貢献する自立した人材を育成する。」 【参考】校訓：自律・挑戦・感謝	
○自律＝基本的生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。 ○挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。 ○感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。	自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。

2 本年度の重点目標	
『明るく、いきいき、笑いのある学校づくり』 キーワード ～ 新しい自分の発見と楽しい学び ～	
①自律精神の育成	: 挨拶、清掃、部活動及び校外活動(社会性)、基本的生活習慣、CCCP力
②基礎学力の定着	: 少人数指導、学び直しの時間、全教科での語彙力強化
③進路保障	: 3年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習
④キャリア教育の推進	: 1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」 3年・・・「課題研究」
⑤指導力の向上	: e-learningによる職員研修、青翔式アクティブラーニング、ICTの利活用、教育相談(不登校・発達障害対応)の充実
⑥地域連携	(総合学科の系列を生かした連携活動) 玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加 生活福祉系列の介護実習 (海洋教育に関する校外連携) 玄海町内保育園、玄海みらい学園、大志小学校との連携 (生徒会活動) 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、 玄海町産業文化祭への出品 (地域・保護者への広報) 青翔ニュースの全戸配布、HPの充実
⑦いじめ問題への取組	: いじめの未然防止と早期対応(SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等)

3 目標・評価							
①自律精神の育成 : 挨拶、清掃、部活動及び校外活動(社会性)、基本的生活習慣、CCCP力							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	○環境整備	・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。	・生活環境における生徒の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境となるよう整備する。	・さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係を中心とした活動を定期的に行う。	B	・さわやか清掃活動は後期は雨天中止となった。 ・ゴミ処理は徐々に改善されてきているが、トイレの使用については、一部の生徒のマナーの悪さが見られた。 ・美化係の活動は臨時的にはできたが、定期的にはできていない。	・H30年度の反省を踏まえ、学校技師と相談したうえで、清掃箇所を検討していく。 ・トイレの使用については、生徒指導部と連携しながら、指導にあたりたい。 ・校内の美化に関する活動を生徒と一緒に考え、実施する。

教育活動	●心の教育	・思いやりの心の育成ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任との情報の共有や保護者・SC・専門機関との連携、協力体制を密にする。 ・HR活動等とおして、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解と情報共有のための職員研修や前・後期各1回の教育相談フォーラムを開く。また、SCの助言を得て関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのLHRを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の健康を目的とした活動は実施できた。 ・SCの利用回数も昨年度の5倍以上に増え、適切な助言をいただくことで、問題を抱える生徒についての各学年との情報交換やクラス運営、生徒指導に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康のためにLHRで実施している自律神経を整える塗り絵が、ただの塗り絵と変わらないよう、活動の目的について再度理解させる。 ・次年度も教育相談フォーラムにSCに参加していただくとともに、適切な指導助言をいただきながら、生徒達の問題解決につなげていきたい。
	○生徒指導	・対話・会話を重視した生徒指導を実施し、落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のできる生徒の育成 ・敬語で話すことのできる生徒の育成 ・ボトムアップで主体的に学校づくりに参加する生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報の共有を行い、生徒に対して多くの職員がいろいろな角度から生徒にアプローチを行う。 ・教員側からも挨拶するように心がけ、敬語については、言い直しをさせるなど、その場で指導していく。 ・クラス討議や生徒総会では、青翔高校がさらにレベルアップするための話し合いを生徒にさせていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から積極的に挨拶することで、挨拶を返すことができた生徒が増えた。 ・クラス討議や生徒総会で敬語で話すことの大切さについて討議したが、まだ敬語で話せない生徒も多い。 ・一年生の授業での私語や落ち着きがなく、指導に苦慮し改善ができない部分もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒、一人一人と時間をかけて話し合いをして、対話を重視した生徒指導を組織的に実践する。 ・生徒が生徒総会等を通して、自分たちの学校生活のルール作りができないか検討したい。 ・落ち着いた雰囲気の中で授業が行えるよう指導方法を検討していきたい。
	○読書指導	・本に親しむ生徒を育成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の貸出冊数を、1人平均6.0冊以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員が中心となり、配布物、掲示板、放送などを使った広報活動を行う。 ・生徒登校時の閉館日を年間5日以内にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員による本紹介を掲載した配布物やポップ作成・掲示などを行い、生徒の図書館利用を促した。 ・生徒登校時の閉館日は年間5日であった。平均貸出冊数は、7.1冊となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用して、本を読む生徒が偏っている。授業での活用など、日頃図書館を利用しない生徒も足を運ぶような取組の工夫や蔵書の更新が必要である。 ・館内での本のコーナー作りや環境整備など、図書委員による自発的な活動を増やしていきたい。
	○基本的な生活態度(礼儀・マナー)の育成	・挨拶や敬語を意識した言葉遣いを心がけさせることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の生徒を中心に自ら挨拶ができる生徒を増やす。 ・目上の方へ敬う気持ちを持たせ、正しい言葉遣いを意識させ、コミュニケーション力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり、部活動の生徒、HR委員へ協力を依頼し、朝の挨拶運動を行う。 ・全職員の協力を得ながらしっかりとした敬語ができるように意識させ、習慣にさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の朝の挨拶運動は多くはできなかったが部活動時に自ら挨拶してくれる生徒が増えてきた。 ・敬語を使うことは大事だと理解はしているが使えていない生徒が多く見られるのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら挨拶をしたり、敬語を意識した言葉遣いを身につけることが社会に出た時に役立つということをもっと理解させる。また、進路指導部と連携した指導をし、進路決定にも繋げていきたい。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食をとっている生徒の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや青翔ニュースなどとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや食育だよりなどをとおし、食育に対する意識の向上を図ってきた。また、減塩に関する外部講師による指導などを取り入れ生徒の反応も良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理能力の育成と健康管理のため、保健だよりや教科「家庭」「保健」などを通して、生徒の健康への意識の向上に努めていく必要がある。

②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、全教科での語彙力強化

領域	評価項目	評価の観点(具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力は定着したか。(青翔タイム、週末課題、少人数指導、成績不振者に対する長期休業中の指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・青翔タイムの活用により基礎学力特に語彙力強化を図る。 ・考査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席の数を昨年度より30%減にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青翔タイムに全職員で取り組み、個々に応じた追指導を行う。 ・考査や模試の結果を迅速に処理し、個人成績票の配布を行う。 ・遅刻者数を減らすために、生徒指導部と連携し、生徒面談、保護者面談等を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・青翔タイムや週末課題などで基礎学力の定着を図ってきたが、学習習慣の定着があまり見られていないようだ。 ・欠席は年々減少しているが、遅刻者数は昨年度よりも30%増となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青翔タイムや週末課題などをとおして、基礎学力の定着に結び付くような効果的な方策を検討する必要がある。 ・遅刻指導に関して、学年団や生徒指導との連携で今後も数を減らす取り組みを継続したい。

教育活動	○少人数学級編成	・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。	・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようになる。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。	・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・複数の学年での少人数学級編成や、授業におけるTTでの指導の機会を拡大させる。 ・産業社会と人間の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。	A	・今年度は1年次生に加え2年次生でも少人数学級編成を実施した。その結果、様々な場面において、きめ細やかな指導が可能となった。 ・少人数による指導により、個に応じた生徒指導や教育相談を行うことができた。	・学級担任・教科担任を中心に、生徒の様子を観察し、個に応じた決め細かな指導ができていた。今後も連絡を密にして取りこんでいきたい。 ・多くの授業で、少人数やTTでの生徒指導を行っているが、学力向上に繋がるよう、さらに効果的な指導を工夫していく必要がある。
学校経営	○学校経営方針	・重点目標は達成できたか。	・重点目標の2つ以上の項目に満足いく結果が得られる職員の割合を80%以上にする。	・各行事前や考査前に呼びかけを行い、目標達成の意識を喚起する。	B	・重点目標各項目で高い評価がされていることがアンケート結果から裏付けられており、ほぼ達成できたといえる。	・各教育活動における具体的な目標を明確にし、組織的に取り組むことで、生徒達の意識向上につなげ、より効果的な教育活動の実現を目指す。

③進路保障 : 3年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・進路希望を達成させることができたか。	・生徒が希望する進路を実現するため、また、早期退学や離職を予防するために、キャリア教育等を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・進学および就職達成率100%を目指す。	・生徒の進路希望や進路に関する適性について、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・各種学校や企業等の関係強化のために、学校や企業訪問を実施する。 ・進路ガイダンス、職業体験などで進路意識を高める。	A	・産業社会と人間の時間や総合学習の時間、ホームルーム活動をとらして将来の職業目標を考えさせ、生徒が自らの進路を探す機会となった。 ・進学においても、1、2年次生からのオープンキャンパス参加を奨励し、進学に関する知識を深めさせた。	・就職では生徒と企業の希望のミスマッチを避けるため、受験前見学会等の参加を積極的に勧め、早期離職の回避等につなげる。 ・進学においても、1、2年次生からのオープンキャンパス参加を奨励し、進学に関する知識を深めさせた。

④キャリア教育の推進 : カリキュラムの中に『総合学科の理念』を実現

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育	・キャリア教育が充実したか。	・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や郷土学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。	B	・年間の実施目標は達成できた。今後キャリア教育の理解を全職員に浸透させていく必要がある。またキャリア教育を単なる生徒の希望進路達成のための活動とするのではなく、生涯学習としての位置づけとしていく。	・本校が総合学科であるという意識の元に、系列学習を活かしたキャリア教育を行う。特に実習や実技などの体験型の活動を充実させていく。

⑤指導力の向上 : e-learningによる職員研修、青翔式アクティブラーニング、ICTの利活用、教育相談（不登校・発達障害対応）の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○職員の資質向上	・教科指導力が向上したか。 (校内公開授業、校内外の研修)	・学習用PC、電子黒板を含めたICT利活用能力をより高める。 ・いつでも、どこでも、誰でも授業をお互いに見せ合う環境を職員間で作る。 ・校内外での各種の研修会を年3回以上受講する教員の割合を95%以上にする。 ・生徒が参加しやすい、わかりやすい授業を目指す。	・ICT教育を絡めた公開授業を年2回計画しており、他にも校内研修を設定しながら教員相互が授業を見せ合いやすい環境をつくる。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう校内研修を充実させる。 ・青翔式アクティブラーニングの取り組みを具体化する。 ・e-learningを活用した職員研修を完全実施する。	B	・ICT利活用推進を積極的に進めるため、教科の垣根を越えて校内研修会を開催し、日常の教科指導に生かしてもらおう研修を実施した。 ・公開授業は計画通り2回行い、ほぼ全職員がICT機器を活用した授業を行った。 ・佐賀県教育センター主催の各種研修会に長期休業中を利用して積極的に参加する教職員が増え、意識改革が徐々に進んでいる。	・作成したデジタル教材は、教科内で共有し、系統的な教科指導の実践を目指す。 ・学習用パソコンの利活用状況改善のため、他校における情報を収集し、良い事例は、積極的に取り入れる。 ・長期休業中を利用して研修への参加を促し、教育者としてのスキル向上を働きかける。
	○業務の改革	・校務の効率化に努めたか。	・定例の業務の引き継ぎを効率的に行う。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。	・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを新たに考えながら校務全体を見直す。	B	・二学期制導入により学校行事を精選し削減することができたので、少しではあるが多忙感は回避できたと思う。	・今年度の反省を十分に生かし、生徒の教育活動が順調に行えるよう月一回の運営委員会、職員会議を開催していきたい。

○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT利活用能力は向上したか。 (電子黒板、学習者用PC)	・電子黒板、学習用PCを利用した授業を実施できる教員を100%にする。 ・学習用パソコンを利用した効果的な授業を展開していく。	・校内の研修を充実させていく。 ・朝自習での利用などを通して、学習用パソコンを利用する機会を増やしていく。	B	・電子黒板を利用した授業は、実施率がさらに上昇した。 ・学習用PCの利用率は不十分である。	・学習用PCを利用した教材研究に関する校内研修を充実させていく。 ・職員への個別対応の研修を増やす。
-------------------------	---------------------------------------	--	--	---	--	---

⑥地域連携
(総合学科の系列を生かした連携活動)
玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習
(海洋教育に関する校外連携)
玄海町内保育園、玄海みらい学園、太志小学校との連携
(生徒会活動)
玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品
(地域・保護者への広報)
青翔ニュースの全戸配布

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○系列	・科目群の授業において地域と連携した授業、活動が行なえたか。 (重点目標参照)	・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。	・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っていく。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」、各系列の授業において地域や企業等との連携を行う。	B	・小学校との交流や福祉事業所での校外実習など各系列の特色が活かされた活動を行うことができた。 ・販売実習を通して、近隣の学校等で地域の方と連携が取れた活動ができた。	・総合学科発表会を軸に、地域の学校や教育機関へ保護者等へ、本校の特色ある取り組みをさらに発信していきたい。 ・各系列の特色を活かした校外実習や同じ地域の学校との連携などを継続して行っていく。
	○生徒会活動	・地域行事への参加と協力が行えたか。	・玄海町民会議での意見発表、福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深める。	・生徒会の生徒を中心にボランティア部と連携し、積極的に地域の行事等に参加することで、地域との連携を図り、繋がりを強化する。	B	・意見発表やボランティア清掃活動、産業文化祭への作品の出展、また、系列の授業等を通して地域の方々との関わりを持つことができた。	・地域の方々との関わりを持つ機会は多くあるのでさらに地域の方との連携を図りたい。 また、系列の販売実習等のなかでもさらに関わりを持つことができるようにしていきたい。
学校運営	○開かれた学校づくり	・広報活動を充実させることができたか。 (公開授業、情報発信)	・学校HP、掲示板の定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・公開授業へ保護者の参加数を昨年度よりも増やす。	・本校の特色を効果的に伝えるために、発信する内容、時期を工夫する。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。 ・各種行事への参加者数を増やすために、事前の情報発信を行う。	A	・HPの更新は、定期的に行うことができた。 ・青翔ニュースは今年度も家庭、地域に毎月配布し、学校の情報発信の中心的なものとなった。 ・公開授業への保護者の参加数は昨年よりも増加した。	・今後も学校HPの更新を定期的に行うとともに、内容の充実を図っていきたい。 ・はなまる連絡帳によるメール配信により、学校の情報発信を今後も行っていきたい。 ・公開授業への参加数は昨年度よりも増加したが、さらに参加者が増えるように、時期や内容の検討を行っていきたい。

⑦いじめ問題への取組 : いじめの未然防止と早期対応 (SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。	・学校生活アンケートを定期的実施しいじめの早期発見につなげる。 ・問題行動発生時には、実態調査や学年集会・全校集会を実施する等の対策を迅速に行う。	B	・本年度、4件の覚知・認知があったが、いじめ対策委員会において十分な対応策を検討できた。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりが出来た。	・年に3回、学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めることが出来た。 ・いじめ事案に起因する事で教室に入れない生徒がいる。引き続き、いじめの早期発見に努めるとともに、人権尊重教育などを実施していく必要がある。

○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・組織的に合理的な校務運営に努め、教職員の業務量の平準化を目指し、健全な心身の維持は図れたか。	・学校行事を精選し、役割分担を明確にすることで、教職員の業務負担の軽減に努めるとともに、年休取得率を前年度比10%増を目指したい。 ・業務記録票による自発的勤務時間が月100時間を超える教職員数「0名」を目指す。	・定時退勤日の実践や校内立入禁止日の設定により日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務効率を向上させる。 ・業務記録票により自発的勤務時間を把握し、長時間勤務の教職員に対しては産業医との面談を積極的に推奨し、ケアに努める。	B	・毎月恒例の衛生員会において長時間勤務を強いられている職員に対し、産業医からも積極的にアドバイスをいただいて、職員の意識改革につながる取組を行った。 ・極力、管理職が最終の戸締まりをして職員の帰宅を促し、長時間勤務の削減に努めた。	・学校行事の計画については、より教育効果が得られる時期を選定するよう情報収集に努める。 ・振休や年休等の有給が取りやすい職場の雰囲気作りに努める。
	○学校事務	・施設設備の維持管理に努めることができたか。	・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見、早期対応に努める。	・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応に努めたい。	A	・安全点検表で不具合のあった分については迅速に現地確認を行い改善策を検討し対応した。 ・日頃から定期的に校内外を巡回し、危険箇所の早期発見に努めた。また、施設をより使いやすいように改修の提案を行い、実行した。	・日常点検や担当部署との聞き取りをもとに、限られた予算の範囲内で施設の補修を心がけ安全安心な学校づくりに努力したい。 ・厳しい予算状況ではあるが、施設の老朽化は進んでおり、今後も改修のための予算を継続的に要求していきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

- ①自律精神の育成: 欠席数は全体的に減少したが、遅刻や早退の数が年度後半に増えた。問題行動は、1年次生において集中的に起き、昨年度より増えた。今後は、さらに辛抱強く丁寧な指導が求められる。多様な問題を抱える生徒に対する指導では、SCの有効活用等により教職員との信頼関係が構築できており、引き続き問題解決につなげたい。さらに来年度は、情操教育を推進する意味でも読書指導に力を入れ、日頃の清掃活動を徹底させる指導も実践していきたい。
- ②基礎学力の定着: 朝の青翔タイムや週末課題の実践等により基礎学力の向上を図ってきたが、一定の効果を得るまでに至っていない。今後は、少人数指導におけるきめ細やかな指導を継続しつつ、効果的な指導法の工夫や研究も必要不可欠である。
- ③進路保障: 進学・就職試験の際、面接指導を中心に全職員が協力し、きめ細やかな指導を行う体制が確立できている。さらに、保護者の協力も得ながら、より実践的な面接指導を行うことができた。結果、卒業生全員の進路確定に結びつけることができた。来年度は、より早い時期より進路意識を確立させ、自らの進路目標に向かっての主体的な取組につなげる進路指導を実践していきたい。
- ④キャリア教育の推進: キャリア教育は学年ごとに充実をしてきているが、総合学科における「産業社会と人間」のあり方について、なかなか苦戦しているという現状があった。今後もさらなる研究をしていきたい。
- ⑤指導力の向上: ICT利活用において、デジタル教材を作成した職員が教科内で情報共有することができており組織的な取組につなげることができている。また、長期休業中を利用した各種研修会への積極的な参加が見られた。特性を有する生徒への対応については、SCを積極的に活用することができており、教職員が自信を持って生徒指導できる体制がとれている。
- ⑥地域連携: 小学校との交流、生活福祉系列の介護実習、インターンシップ等、地域の方々と連携した教育活動を実践した。今年度は新しく情報ビジネス系列における教育活動の一環として生徒達がプロデュースした商品を販売し、実学を学ぶ取組に挑戦した。また、名護屋城博物館での「日韓交流史」の授業、韓国語スピーチコンテストへの参加する等、地域と連携のとれた教育活動を実践した。そのような本校の教育活動を家庭や地元の方々に知ってもらうため、本校学校新聞「青翔ニュース」を配布し本校の教育活動に理解を求めた。さらに、姉妹校となっている「釜山外国語大学校」との交流は、今年度、本校生徒が訪韓し交流する機会も得ることができ、年々盛り上がりを見せており、来年度以降も是非、活発な交流を期待している。
- ⑦いじめ問題への取組: 今年度のいじめの認知件数は4件であった。今年度は年間3回のアンケートを行い、速やかに適切な対応をとることができた。いじめに対する考え方を全教職員で共有し、今後もいじめの早期発見、未然防止を目指して取り組んでいきたい。